


令和7年度 綾瀬市立春日台中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで学ぶ人 ・精神と身体の健康な人 ・責任を重んじる人 ・心豊かであたたかい人 	
学校経営方針 (グランドデザイン)	 <p>2025 綾瀬市立春日台中学校 グランドデザイン (ONE K)</p> <p>学校の理念: 心を豊かにし、心豊かな人をつくり出す。人を愛する心を持ち、社会を生き抜く力を身に付けた子どもを育てる。</p> <p>学校教育目標: 思いやりと責任を重んじる人、心豊かであたたかい人、心豊かであたたかい人。</p> <p>目的: 人を愛する心を持ち、社会を生き抜く力を身に付けた子どもを育てる。</p> <p>目指す学校像: 人が活き人を活かす学校</p> <p>育てたい資質・能力: 心 コミュニケーション能力、育てたい資質・能力: 心 課題解決能力</p> <p>教育指導の重点 (目指す生徒の育成) と方策</p> <p>主体的に学習に取り組む (すすんで学ぶ) 確かな学力を身につけた生徒の育成</p> <p>精神と身体が調和した活力ある生徒の育成</p> <p>自他を認め、高め合える思いやりの心をもった生徒の育成</p> <p>保護者・地域から信頼される生徒の育成</p>	
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 主体的に学習に取り組み (すすんで学ぶ) 確かな学力を身につけた生徒の育成 2) 精神と身体が調和した活力ある生徒の育成 3) 自他を認め、高め合える思いやりの心をもった生徒の育成 4) 保護者・地域から信頼される生徒の育成 	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「すすんで学ぶ人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	生徒の肯定的な意見は昨年度からさほど変化は見られませんでした。保護者は約30%上がりました。すすんで学ぶ生徒の育成ができるようにICTの活用を含めた授業の効果的なしなかけを工夫するとともに、授業の内容を振り返り、学力の向上に繋がるような学習改善に努めます。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	多くの生徒が積極的に学校行事や生徒会活動、部活動などに参加しています。学校行事や生徒会活動では、意欲をもって参加する生徒が多く、部活動も熱心に取り組んでいます。また、学校行事を通して、学校の一体感が高まっています。教職員と生徒の間、また生徒同士の信頼感が高まり、互いを思いやる心が育ってきています。これからも生徒たちが安心・安全かつ積極的に参加できるような学校行事の企画運営に努めていきます。また、春日台中学校区として、ピンクシャツデーの取組を通し、小中連携を果たしていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「心豊かであたたかい人」を育てる指導を積極的に行っている。	生徒約90%、保護者約97%、教職員約95%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しています。昨年度に引き続き高い数値を示しています。これは、それぞれが日頃から意識してコミュニケーションを取ろうとする気持ちの表れだと思われます。今後もよりよい人間関係作りのため、道徳教育や人権教育等の研鑽を積み、「心豊かであたたかい人」の育成に努めます。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	約85%の生徒が「楽しく登校している」と回答しています。友人や教職員と良好な関係を築き、学校生活を楽しいと思う生徒が多くいることが推察されます。これからも授業や学級活動、学校行事において、生徒が主体的に取り組めるようにしていきます。また、安全で安心して学校生活を送れるように努めるとともに、生徒に寄り添いながら、学年、学校全体でよりよい集団作りに取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	約80%の保護者がいじめの早期発見・再発防止のための取組をしていると思う」と回答しています。今後もスクールアンケートの回答をもとに生徒への声かけを大切に、日々の授業や学級活動、生活相談等で生徒とコミュニケーションを図ります。また、面談や家庭連絡を通して保護者との連携を図り、生徒の様子や変化等に家庭と協力して対応していきます。教職員間で日々の情報交換も大切に、いじめの早期発見・早期対応・再発防止に向けてチームとして指導・支援に取り組んでいきます。
6 保健管理	学校は「精神と身体の健康な人」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	「とてもそう思う」、「そう思う」の割合が生徒・保護者・教職員、すべての対象者で昨年度よりも高い数値を示しています。このことは、学校行事・授業・学級活動等の中で心身の健康について触れる機会を生かし、声かけ等の指導に取り組んできた成果であると思われます。今後も引き続き、健康教育で用いる資料や講演会の内容を、教職員だけでなくスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどからも幅広く意見を求め、熟考することで、より良い指導ができるようにしていきます。

7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設設備の点検・整備に取り組んでいる。	創立から40年が経過し、校舎の老朽化が見られるため、生徒が安全で安心できる学校生活を送ることができるよう、校内施設、設備等の保守点検を、今後さらに丁寧に行い、教育委員会と協力して安全管理に努めます。また、今後も、衛生管理を徹底し、感染症等の予防に努めます。さらに、PTA校外指導委員会と連携して、通学路の安全を図り、登校指導やあいさつ運動を継続して多くの目で子どもたちを見守っていくことができるよう、地域とのつながりを大切にしていきます。併せて、学級活動や道徳、避難訓練などを通して、自他の身を守ることでできる生徒を育成していきます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	90%の教職員が生徒に対する支援の工夫をしていると回答し、支援体制への意識をもって教育活動を行っています。今後も教職員の支援に対する意識を高め、よりよい支援体制や環境を整えていきます。また、生徒や保護者と面談する機会を大切にし、コミュニケーションを図りながら信頼関係を築いていけるように努めます。そして、チームとして支援ができるようにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係諸機関との連携を図り、支援の充実に努めます。
9 組織運営	校長を中心とした運営になっている。	学校経営方針（グランドデザイン）に示された学校教育目標達成のため、各グループの総括教諭を中心に校務の取り組み方を工夫改善し、教育活動を実施します。総括教諭等が活躍し、教員一人ひとりが意識・意欲を高め、また持ち味を生かして、学校全体の組織力の向上に努めます。今後も、課題を明確にし、より組織的、効率的、機能的な学校運営組織が構築できるよう努めるとともに、連携を密にした学校運営を目指し、全教職員が一体感を持って教育活動に取り組めます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	今年度は、悉皆の研修や基本研修、年次研修以外の自己研鑽のための研修に参加する教員が複数いました。研修で学んだ内容や身に付けた知識・技能を、自己の職務に生かそうと取り組んでいます。校内で実施する全教員対象の研修に加え、自己研鑽の研修も大変重要であると考えます。今後も校内研究、道徳、生徒理解等の充実を目指し、より効果のある研修会を企画・実施するなどして、教員の総合的な指導力向上に努めるとともに、学校教育目標に掲げられている目指す生徒の育成に全教職員で取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	これまでも「学校教育目標」や「教育指導の重点」で示された生徒像を目指して、教育活動を行ってきました。肯定的な意見の教職員は昨年度から少し高まり約90%に上がりました。あらためてグランドデザインを教職員が意識し、さらに理解を深めていきます。日常の授業だけでなく、道徳、学級活動、生徒会活動、部活動等においても、3年間を見通しながら計画的・継続的且つ効果的に教育活動を行うことで、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指します。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者87%、教職員95%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しています。教職員は昨年度とほぼ同様の数値を示し、保護者の割合は昨年度より3%上昇しました。このことから学校情報配信システム(C4th Home&School)の配信が学校と保護者をつなぐ重要なツールとなっていると思われます。今後も伝える情報、内容を精査するとともに個人情報の取扱いに留意しながら、本校の教育方針や教育活動、授業や行事の様子などを保護者に発信していきます。また、地域との連携については、持続可能な協働のありかたについて検討していきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <p><ICT活用について> 社会では書類作成や会議の時にAIの活用が当たり前になってきているが、学校ではAIは使用できるのか。 →本校では、調べ学習等で活用する機会がある。AIは使用方法によって、思考力や想像力の低下も考えられるため、効果的な活用の仕方を工夫していくことが大切である。</p> <p><保護者アンケートについて> 複数の子どもが在籍している場合の回答方法について「きょうだいで同じ内容である」「別の回答を記入する」の項目があると保護者の負担を軽減でき、集計数を正確に把握できるのではないかと。 →集計数にも影響が出ることで、正確に把握できる方法を考える必要がある。</p> <p><グランドデザインの指標について> 概ね達成されていて生徒たちがよい学校生活を過ごしていることが伺われる。ピンクシャツデー等の取組が生徒の心を育てるとともに落ち着いた雰囲気をつくっている。 →ピンクシャツデーについては、春日台中学校区内での連携が始まっているので、今後は地域や市内中学校にもより広がっていくとよい。</p>		